

今日のキーワード 「OPEC月報」、需給正常化を予想（グローバル）

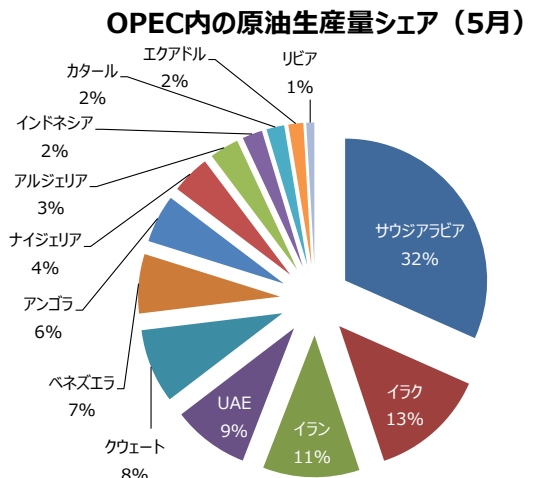
「OPEC月報」は、OPEC（石油輸出国機構）が毎月中旬に発行する石油の調査資料です。英文で100ページ近い資料で、原油の生産、需要や価格動向はもちろん、世界経済や石油精製業界、タンカーの需給、原油の貿易量など幅広いデータが掲載されています。原油需給の将来の見通しも行われており、原油市場を見る上で非常に有益です。

ポイント1 OPECの生産量は世界の約4割 貿易量ではさらに高いシェアを有する

- OPECの原油生産量は、2015年の日量平均で3,188万バレルでした。OPECの世界生産に占めるシェアは約4割です。ただし、最大の産油国であるアメリカが原油を輸入しているなど、自国での消費があるため、貿易量に占めるOPECのシェアはさらに高く、その生産量は極めて重要です。
- 13日に公表された「OPEC月報」の6月号によれば、今年5月のOPECの原油生産量は日量3,236万バレルと昨年の平均値からは若干増加しています。アメリカを中心とする先進国のイランへの経済制裁解除で、イランの増産が目立っていますが、一方でナイジェリア、ベネズエラが減産となっています。

ポイント2 サウジアラビアが生産量首位 OPEC内での発言力強い

- OPEC内の原油生産量シェアは、右の図表に見るようにサウジアラビアが32%を占め最大です。次いでイラク、イラン、UAE（アラブ首長国連邦）などが続いています。
- このため、OPEC内では、サウジアラビアの発言力が強い傾向にあります。サウジアラビアは他の産油国に比べ埋蔵量が豊富で、短期的な原油価格の上昇よりは、長期的な戦略に立ち、自国やOPECのシェアを重視する傾向があります。



(出所) OPEC月報のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 年後半には供給過剰が和らぐ

■ OPECの生産は思ったほど増えていない

原油価格は、年初に1バレル30ドル台を割り込むまで下落しましたが、最近では50ドル程度まで回復しています。イランの増産はあるものの、ナイジェリアの内戦の影響でOPECの生産量がさほど増加していないうえ、米国やカナダで減産となっているためです。

■ 16年後半には需給は正常化の方向へ

「OPEC月報」によれば、今年後半には、新興国の原油需要が堅調なうえ、季節要因で先進国の増加も見込まれる。一方、OPEC以外の産油国での生産減少が見込まれ、世界の原油需給は、これまでの供給過剰が和らぐと予想しています。

ここもチェック! 2016年5月27日 「OPEC総会」の見方（グローバル）

2016年5月24日 資源価格の動向 原油は当面底堅いが、鉄鉱石は下落基調続く

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。